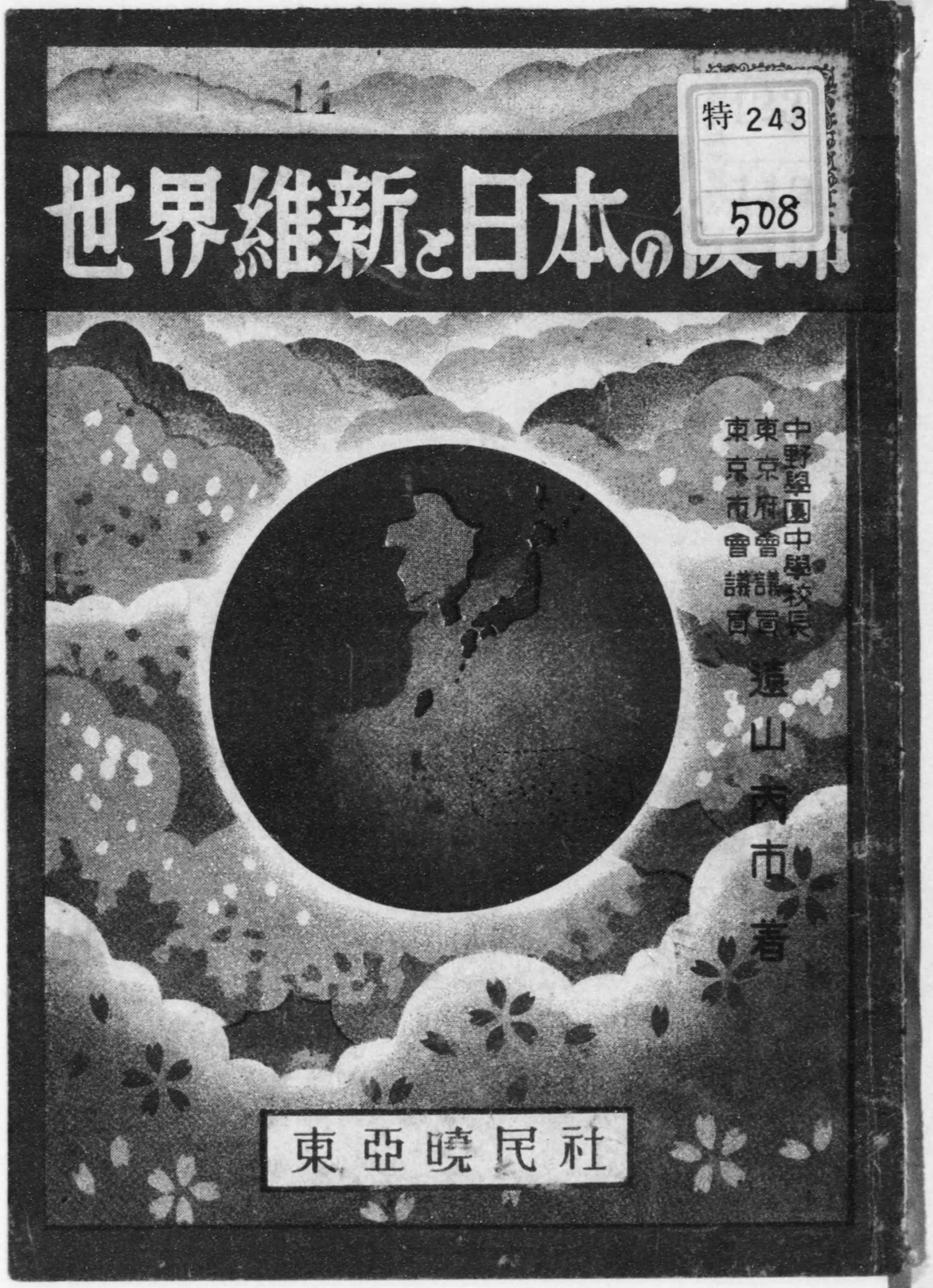

特 243
508

0001849000

③

0001849-000

特２４３－５０８

世界維新と日本の使命

遠山丙市・著

東亜暁民社

昭和１６

AAC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第６７条の規定に基づき、平成１２年５月１５日
付けで文化庁長官の裁定を受け使用するものです

世界維新と日本の使命

特 243
508

中野學園中學校長
東京府會議員
東京市會議員
遠山丙市 著

東亞曉民社

特243
508

著者　遠山丙市氏

著者、遠山丙市氏は岐阜縣に生れ中央大學法學部獨法科卒業、早くも大學一學年在學中高等試驗に合格し辯護士登錄、爾來山梨大將事件を初め數多の大事件に關與し、法廷大論陣を張り斯界に重きをなし、東京辯護士常議員に選ばるゝこと三度、擧げられて司法事務審査委員長となる。

更に衆望を擔ひて東京府會議員、東京市會議員に連續當選すること既に五回、引續き其職にありて自治改新の爲に邁進しつゝあり。

他面育英事業に盡瘁し財團法人中野學園中學校長、中野高等無線電信學校理事等の職責にあり。

夙に滿洲・蒙古、支那大陸各地を具に踏査すること數度、東亞研究の權威者として識られ、玆に緊迫せる國際情勢を憂へて本書「昭和維新と日本の使命」を執筆せり。

外に「模範六法全書」「法學概論」「オリムピック舞臺は東京へ」「六大都市の貿易」「中小工業者伸展策」「國家總動員法詳解」等幾多の著述あり。

序

個人主義的宇宙觀に基調をなす現代文明は種々の缺陷を暴露して來た。卽ち實力なき者が實力以上の物を持ち、且つ實力以上の領土を持つて之を持てあまし、或は濫用するは正義に合しない。かゝる部分的不正の爲に全體の進步發展が阻害される。

然るに英、米はその持つ豐富なる獨占的資源を全人類の爲に解放しようともせず、アングロ・サクソン以外の民族の搾取を續ける事に依り舊秩序を維持せんとしてゐる。

斯の如き矛盾を是正し可く新しき世界觀に基き、世界新秩序を確立せんとして敢然立つたのが皇國日本である。卽ち十年前の滿洲事變は實質的に視れば世界維新運動であつた。爾來、獨伊を始め數ヶ國はこの運動に感銘、欽然參加するに至つた。斯して、今や世界は之等全體主義國家群と舊秩序を維持せんとする自由主義國家群との對立となつた。

かゝる情勢下にあつて萬古不易の肇國精神の發揚に依り世界新秩序確立に指導的役割を果すは日本民族に課せられたる歷史的大使命である。

幸ひにして本書が大方諸彥の參考になれば、著者の本懷これに過るものはない。

著者識

目次

個人主義世界觀の歷史的意義……（一）
自由主義文明の沒落……（三）
皇國日本に依る世界維新……（七）
日本民族の世界觀……（一三）
昭和維新……（一四）
將來の課題……（一六）
世界文化の創造……（一八）
皇國日の本世界指導……（二一）
敎育理念の革新……（二四）

世界維新と日本の使命

財團法人
中野學園中學校長　遠山丙市著

個人主義世界觀の歷史的意義

思ふに現代文明は形式に於ては種々の變遷を經たりと雖も、その基調をなすものは一貫して個人主義的宇宙觀である。

個人主義が十九世紀初めの佛蘭西革命以後、廿世紀の歐洲大戰に至る迄一世紀に亘りて資本主義發展の基底となり、之に依りてその偉大なる物質文明を花咲かせし事は、何人もその功績を認むるに吝かでないだろう。

論議する迄もなく、個人主義は中世神學の獨斷及び法王のドグマの壓制よりの息苦しさに堪へず、恰も十五、六世紀に於ける新世界發見の客觀狀勢に伴つて開かれた

る「我」の自覺に基く。神學より科學及び哲學へ、獨斷的信仰より理性的批判への「自我」の發見である。

この「自我」の發見は考ふる事の自由としての宗教改革、語る事の自由としての言論の自由、働く事の自由としての資本主義を要求し、遂に政治革命としては議會政治の確立・法律的には私有財産の保護と契約の自由に迄發展して、現に見るが如き華麗な文明を築き上げたのである。

斯て目醒めたる個我は當然樣々の自由を要求し、その充たされたる自由が又個我の生長發達を助け、個人主義と自由主義とは兩々相俟つてその完成を遂げるに至つた。

殊に當時發生したる資本主義は唯だ個人的イニシアティーブにより世界の資源が開發せられ、その資本も蓄積せられたるを以て、個人主義と自由主義は實に資本主義發展の左右に仕ふる侍女であり、議會は又その保證者であつた。蓋し當時の産業は尙幼稚にして高度化せざるを以て、その開發に現在の如く巨額の資本を要せず、少しの勤勉努力を以て蓄積したる資本にて能く社會の一角に雄飛し得た。加るに開發さる可き

資源も豐富なるを以て、優勝劣敗の自由競爭こそ社會的公正に適合し、その優者が資本を蓄積して、益々資源を開發する事は全社會の爲でもあり、又國家發達の源泉でもあつたのである。

而して國際的には英國が資本主義の先頭に立ち、他の諸國は半製品國或は原料品及び食料品生産國として、世界は國際分業の下に平和なる相互交換を必要とした。自由通商が世界的生活原理であつたのも故なしとしない。

自由主義文明の沒落

然るに十九世紀後半より世界産業は輕工業より機械工業、重工業へと高度化し、その建設に巨大なる資本を必要とするに至りて、獨占的巨大資本體のみ能くその存在に堪へるに過ぎぬ狀態となつた。之に伴つて人的能力は第二義に落ち最早自由競爭は社會の推進力たる重要さを失つた。そこで自由主義も亦次第にその影を薄らかざるを得

なくなつた。

他方、國際的にも世界はいつ迄も英國の尖端的、獨占的の地位を許さず、獨、米等の競爭者が出現するに至り自由通商も危機を告げた。

然るに尙國內に多大の開發資源を包藏する英、米にとりては、自由主義と個人主義が社會發展の生活原理でもあり、國際的既得地盤を擁護する世界秩序でもある。而して英、米はその持つ豐富なる獨占的資源を全人類の爲に解放しようともせず、アングロ・サクソン以外の民族の搾取を續ける事に依り國際資本主義の餘命を保たんとしてゐる。

所謂「持たぬ國」とて凡てを持たぬのではない。勞力と能力は充分にありながらにして、その能力を活用す可き舞台を持たないのである。持つ國とて凡てを持つてゐるのではない。立派なる檜舞台のみは持つてゐるが、そこに働く肝腎かなめの名優がないのである。即ち實力なき者が實力以上の物を持ち、且つ實力以上の領土を持つて之を持てあまし、或は濫用するは正義に合しない。かゝる部分的不正の爲に全體の進步

發展が阻害される。換言すれば、世界經濟の發展と世界文化の向上は阻害されるのである。

斯の如き矛盾を是正す可く新しき世界觀に基き、敢然立つたのが皇國日本である。即ち十年前の滿洲事變は實質的に視れば、世界維新運動の旗擧げであつた。

從來、資源に乏しき我國は米國及び英國の殖民地より原料を得て之に加工し、而して之を又米國及び英國の殖民地に賣る。その金を以て又原料を買ふと云ふ事を繰返して來たのである。言はば日本と云ふものが國を擧げて勞働者となる事であつた。即ち我々は英、米の奴隸と云ふ境涯に迄なり下つたのである。

にも懸らず、近時歐米諸國の我國を目標とする經濟戰は深刻の度を高め、關稅の引上げ、日本品の輸入割當等に依り邦貨排斥に向つて共同戰線を張り、加るに殖民地の門戶を堅く閉ざして日本移民の排斥を各地に於て行ひ、我が日本民族の生存圈は益々不安となつて來た。

かゝる時、國內にありては歐米文化の直輸入に依り、著しく物質文明の發達を見る

と共に個人主義の浸潤を來し、産業報國の念は忘却され勞資の鬪爭は頻發し、而して左傾思想の魔手は愈々延びて我が三千年の尊き歴史を忘れ、日本精神は衰退し忠君愛國の念は薄らぎ、華美遊惰の風は義勇奉公の精神を等閑に附し、恩想は益々惡化せんとしつゝあつた。

特に國政處理に任ずる政黨は、互に競ふて自家黨勢擴張のみを事とし、之が爲めには濫りに不急の事業施設をなし、黨人の爲めに無用の職務機關を新設し、徒らに國費の濫費を吝まず、國費支辨に依る地方長官は勿論、黨勢維持と直接間接に關係ある官公吏は、內閣更迭の都度大異動を行うて憚らず、在任半年乃至一年を以て何んの善政を行ひ得よう。國家に奉公の爲めの官公吏を、甚しきは黨略遂行の手先に使ふに至りては、言語道斷と云はざるを得ない。

殊に殖民地は對外的にも重大なる交渉あるを以て、從來武官總督、長官を置き政黨政派を超越して專ら殖民行政を執らしめたるも、近時種々の口實を設けて文官に變更し、政變の都度其の更迭を行ふ有樣にて、今や殖民地迄黨略の魔手を伸張するに至

つた。

又黨利の爲には財閥、所謂政商と握手して利權暴利を貪り、國民大衆の損失は毫も顧みざるのみならず、甚しきに至りては私の爲に顯職を濫用し、國法を犯しながら恬として羞ざる者も黨人中より少からず出づるに至つた。

斯の如く政治家は徒らに政權の爭奪に沒頭して國利民福を顧みず、資本家と勞働者との間には勞資鬪爭が起り、財閥と政治家との間には不都合極まる結托が行はれ、多くの民衆は日を遂うて困窮の淵に陷りつゝあり、而してかゝる社會不安に乘じて赤化主義思想が國家を全面的に混濁せしめんとするに至りては、國運の前途甚だ寒心に堪へず國民は早くも其の心に新しき政治理想を抱くに至つた。

皇國日本に依る世界維新

「水流究まらんとしてまた通じ、一路絕えなんとして大道開弘す」と古人の語の如く

昭和六年九月の滿洲事變は叙上の形勢を轉向せしむる一大機緣となつた。もと滿蒙の地は日本が東洋永遠の平和を確立し、世界平和を維持する目的を以て國運を賭して其の保全に努め、實に三千年の久しきに亘りて其の開發に努め來れるものである。然るに張作霖爆死の後を承けて滿洲の支配者となれる張學良は、種々の誤解より日本に對して豫て敵意を抱ける支那政府と結び、滿洲に於ける我國の特殊地位を無視して、その政治的、經濟的勢力を驅逐せんとしたるを以て、猛烈なる排日運動を滿洲に激成し、遂に昭和六年秋に至り所謂九・一八事件を引起すに至つた。

しかし乍ら日本軍の迅速果敢なる行動によつて、一擧にして張學良政權を放逐し之を掃蕩した。多年張政權の壓制と誅求とに苦しめる滿人は、此機に乘じて獨立運動を開始し、昭和七年獨立を宣言するに至つた。而して我國は新しく建國された滿洲國を承認し、日滿議定書を締結して兩國共存共榮の基礎を法的に確立し、茲に日滿兩國は相携へて亞細亞新秩序の建設に拮据する事となつた。

日本が此の神聖なる事業に當面するに及んで、國民の魂に眠れる愛國心が俄然とし

て目を覺した。曩に一世を風靡せる民主々義、共產主義は漸く其の影を潜め、國家主義的傾向が旺盛となつた。而して我國が滿洲事變に對する列强の壓迫を峻拒し、敢然として國際聯盟を脱退し、更に倫敦條約の廢棄を斷行するに及んで國民的自覺は一層强烈を加へ、從來過度の歐米崇拜を超克して潑溂たる自主的精神の更生を見るに至つたのである。

然るに滿洲建國は甚しく支那を刺戟した。さなきだに我國の眞意を誤解し多年排日抗日を續け來た支那は、滿洲建國を以て日本の帝國主義的野心に出でたるものとし、失地回復を叫んで國民の敵愾心を鼓舞した。之が爲屢々不祥事件を繰返したが、昭和十二年七月蘆溝橋に於て、日本軍の一隊が突如支那兵の爲に射擊せらるゝに及んで、形勢は遂に爆發點に達した。支那は我國を輕視して飽く迄挑戰的行爲に出でたるを以て、我國も止むなく建國以來未曾有の大兵を大陸に用ゆるに至つた。而して事變勃發後五ヶ年、此間我が陸海の將兵は大御稜威の加護の下に到る處支那軍を擊破した。

日本出兵の目的は畏くも昭和十二年九月四日の勅語に煥乎たる如く「一に中華民國

の反省を促し速に東亞の平和を確立せんとする」に外ならないのである。而して王精衛は日本の出兵目的が東亞の平和確立にある事を了解し、和平新支那を建設せんとするに至り、日本の支援を得て新中華民國を創立して之を内外に宣言するに至つた。されど蔣一派のものは四川省の一角に據つて英、米、蘇聯の後援を恃み、また一つには日本の國力消耗を期待して今猶抗戰を續けてゐる。

この間にありて日本精神は國民の心の中から徐々に擡頭し、現在に於ては非常なる勢を以て其の支配的地位を獲得し、國民的自覺を促し世界に於ける唯一最高の指導原理たらんとしてゐる。この精神は輸入思想と異り民族的信念を基礎とし、三千年の歴史を背景として生れたる日本獨自の精神である。この精神の高潮こそ民族の眞實なる血の叫び、我が國土の魂の聲としておそらく唯一最高の指導原理となり、而して世界最高の文化を創造し全人類をして悉く此の文化の恵澤に浴さしめ、日本は勿論の事、各國家各民族をして夫々その處を得、その志を伸さしめ、かくして各國家各民族は自立自存しつゝも、相倚り相扶けて全體として靄然たる一家をなし、以て生成發

展して止むことなからしめんとするものである。

これは一方世界の風潮が歐洲第一次大戰以來、國際共調より國家的自主的に傾きたる必然の顯れとしての我國に於ける反映であるとも見られるが、他方歴史的に見て當然起る可き一つの革新であつて、滿洲事變を契機として國家意識が覺醒したると共に滿洲問題を繞る國際聯盟に於て、四十二對一の名譽ある孤立を確保し、遂に其の脱退を敢行したる對外的重大事件に遭遇し、國民等しく精神的に醒めて新しく出發せんとする事に原因するものである。

國際主義より國家主義へ、共調的傾向より自主的傾向への轉向は、歐米崇拜の迷夢を破つて自尊心を呼覺し、祖國の反省並に再認識が行はれた結果、我等の祖先の業蹟は文化的にも思想的にも、決して歐米人に讓るものでなき事の確信を得ると同時に、久遠の過去より永遠の未來へと進歩發展して止まざる不朽の精神――祖國の意志――日本精神なるものゝ存在に着眼したのである。

而して、前述の如き日本の對外的危機並に國内狀態に深き認識を有つ憂國の士に依

り血盟團事件、五・一五事件、神兵隊事件、二・二六事件等を引き起すに至つた。

日本民族の世界觀

眞の日本を知る事が、一切の日本的活動の出發でなければならない。我等日本民族の有つ大理想は皇道を世界に宣布し、而して八紘一宇の顯現にある。即ち日本神話は日本が宇宙の根本生命より自ら生成發展し來つた事を說いてゐる。縱つて天皇と國土と國民は同一の生命的根基に依り生成したる一大家族であつて、神皇不二、君民一體身土同胞等の世界觀は此處に其の基礎を有し、日本が家族國家たる所以も亦此處にあるのである。

一面に於ては日本民族の世界的發展を基礎づけ民族の氣魄と包擁力を示すものであり、又皇道を世界に宣布して世界の國家國民をして我と同一世界觀に立たしめんとすることであつて、世界征服を意味するものではない。我等の祖先はこの精神を世々繼

承しその發揮に努めて來たのである。

然るに滿洲事變勃發するや、歐米諸國は皇國日本の眞意を解せずして濫りに侵略者呼ばはりしたが、彼等の豫期に反し滿洲國は創立僅か十年にして王道樂土と化した。而して今事變に際しては自ら進んで皇國日本の亞細亞新秩序建設に協力して、世界平和に貢獻せんとしてゐるのである。

今又、支那事變を迎へて愈々八紘一宇の民族使命實踐の大道に乘り出したる我等の行動を世界舊秩序の破壞者なりとして、世界の現狀維持陣營たる英、米等は援蔣行爲を續けて、聖なる我が新秩序建設を妨げてゐる。即ち我國は從來英米より物資を輸入して來た。然るに支那事變以來、彼等は重慶に向つて援蔣物資を大量送るに懸らず我國に對する輸出は制限を加へ、特に近時に至りては重要物資の輸出を禁止し或は禁止の狀態に陷らしめ遂に我國をして干戈を交ゆるの止むなきに至らしめた。

しかし乍ら滿洲事變當時と異り、歐洲に於ては全體主義世界觀に立ちて歐洲新秩序を建設せんとする獨、伊ありて、目的を同じくする我國と同盟を結び、東西相呼應し

て共に世界新秩序の建設に向つて邁進しつゝあるのである。

かくして滿洲事變に於て皇國日本に依り、舊秩序維持の鐵鎖を切つて落された世界は、今や個人主義自由主義的世界觀に基き舊秩序を維持せんとする陣營と、新しき世界觀の上に立ちて新秩序を建設せんとする陣營との對立となつた。勿論、獨、伊と異り我國は三千年の歷史を有する純乎たる建國の大理想——皇道を世界に宣布し、而して八紘一宇の顯現にある事は云ふ迄もない。

かゝる情勢下にあつて我國は萬古不易の肇國精神の發揚に依り支那事變處理を完遂し、大東亞の地に亞細亞本來の姿に基く新秩序を建設すると共に、進んで世界新秩序に指導的役割をなし、我等の世界史的使命を果さねばならない。茲に新日本の擧國的發足、世を擧げて新體制樹立への巨歩が運ばれるのである。

昭和維新

「理想なき力は兇暴である。だが力なき理想は空想である」理想なき力の兇暴に對しては力を必要とする。而も我等には三千年の歷史を有する肇國の大理想がある。此の唯一最高の大理想を顯現して我等の世界的使命を果す爲には力を持たねばならない。茲に高度國防國家確立の急を要する所以がある。

故に新體制の樹立と云へども、要は國防國家の建設と云ふ中心觀念に基き國防の充實、軍需工業の擴大と云ふ事にある。だが之と同時に、各方面に於て所謂、新體制なるものが合理的に經濟倫理、社會正義と合致して併せて實現されねばならない。

然るに戰爭の影響は人的資源の缺乏を生じ、生產擴充に支障を來し物資の流通は著しく害されるに至つた。而して物價は暴騰しその止まる所を知らず、時局を認識せざる徒輩は此の機に乘じて私腹を肥すことのみに專念し、何等國策に協力するところなかつた。かくては此の未曾有の難局を乘り切つて目的達成する事能はずとなし、凡ゆる方面に於て革新斷行の必要を痛感するに至つた。

かくして諸方面に革新の運動起り、經濟方面に於ては、自由經濟を排して統制經濟

の確立へと移行し、政界方面にありては、各政黨の解消を宣言し、六十年の歴史を有せし政黨は全く解消されるに至つた。

茲に於て萬民翼賛の體制を整へ、而して我が肇國理想の顯現に努めんとして大政翼賛會が組織せられるに至り、個人主義、自由主義的の國内體制は排せられ、國家本位の新體制確立へと進むに至つた。而して滿洲事變によつて世界維新の魁をなしたる皇國日本は、國内體制に於て昭和維新の斷行遲きの感ありと云へども、今は全く我等大和民族が神意によつて與えられた世界指導の第一階段としての亞細亞共榮圏確立の爲、一億一心以て一丸となり新しき首途についた。

將來の課題

精神が主體となり價値を創造し――精神の實現――精神の行動化が人類の文化である。文化の創造的進化を記述するものが歴史であれば精神の生活は歴史であり人間

の文化は精神の發展である。

然るに偉大なる日本精神は滔々として流入する異邦文化を悉く抱擁し、之を國民的生命の内容として攝取し、而して新しき全體となし、此の新しき全體に於て、曾て存せざりし新しき生命と新しき意義を得來り、こゝに東洋文化なるものを創造して西洋文化に相對するに至つた。

我等の先輩は、かつて偉大なる西洋文化に接し驚きの目を以て之を迎へ、その美に眩惑され思想の動搖、其他種々の弊害を生じたりと云へども、明治初年以來僅か七十餘年にして我國の文化は世界水準に達するに至つた。然し乍ら、これ等の文化は活きた國民精神に攝取せられて新しき全體となり、此の新しき全體に於て、曾て存せざりし新しき生命と新しき意義とを得る迄に至つてゐない。茲に我等國民の使命がある。

かつて印度及び支那文化の渡來に際し、舊を失ふことなく我等は是等亞細亞に於ける一切の文化を攝取し、東洋文化なるものを創造し得たのである。然るに今亦幸なるかな、異邦文化に接し得たる我等は、異邦文化の單なる模倣者たる事なく、此の

西洋文化の一切を國民的生命の內容として攝取し、而して亞細亞文化を創造せる如く世界文化を創造す可きである。

既に創造し得たる東洋文化を有つて全亞細亞を指導せんとしてゐる皇國日本は、世界文化の創造に依り世界も亦指導し得るのである。この世界指導こそ、我等日本民族に課せられたる歷史的使命である。

世界文化の創造

前述の如く我等は支那文化に接觸して之を吾ものとし、次いで印度文化に接觸して之も亦、吾ものとした。而して亞細亞精神の兩極とも云ふ可きこれ等の文化は、日本精神に依り正しき方向を與へられたが故に、今日迄生命を護持し長養されて來た。

日本精神がかく入り來る總ての文化に方向を與へる事の出來るのは、取りも直さず正しき理想を抱くが故である。卽ち我等の祖先が此の國を肇むるに當り、全心全靈を

擧げて確立せる理想は「あまつひつぎのみさかえ、あめつちとともにかぎりなけむ」ことであつた。日本建國の理想は實に此の二句に盡されてゐる。

天つ日嗣ぎの天壤と共に無窮なることは、直ちに日本國民の永遠の發展を意味する。かゝる悠久にして森嚴なる建國の理想こそ、異邦文化の渡來に際し我等をして精神的屬國たらしむる事なからしめた。而して一度其の根を我が國土に下せる凡ゆる文化は決して凋落せざる美はしき花を咲かせることを得た。

近時東洋文化は敎であり、西洋文化は學であると云はれてゐる。慥に東洋文化、特に支那文化は敎であつた。今日西洋文化に押され勝ちなのは之に依るのであろう。

然るにこの西洋文化も明治維新以後我國に流入して來た。かくして東西の文化は我國に集り、世界何れの國と云へども、我國の如く東西の凡ゆる文化を吸收し得たる國はないのである。

既述の如く悠久にして森嚴なる建國の理想を有する我等が、世界の凡ゆる文化に接したる時、曾て東洋文化を創造せる如くこれ等の異邦文化を吾ものとし、世界文化を

創造して世界歴史に貢献するは必然である。

内村鑑三氏が明治二十七年に著した「地人論」に依れば「南半球の各大陸は北半球の大陸が開發された後に、その文明の力を南半球で發揚せんが爲に神様が殘しておくのである。人類は北半球に於て文化創造の爲に鍛錬せられ、その鍛錬した力で南半球に及ぶ。歐洲はアフリカを同化してその文明をこゝに發揮し、北米は南米を同化してその文明をこゝに發揮し、南洋、濠洲は日本並びに支那の文明を發揮して、それから此處に及ぶ可きである。世界の文明が西漸の極に達する時は、やがて南漸する時である。今やその時が近づいた。かやうにして全地球は神がこの世界を創造した文化普及の目的が達せられるが、これを完成するのが吾々の義務であるとし、東洋文明は東漸して日本に來り、西洋文明は西漸して日本に來り、結局は東西文明の樣々の區別も最後は統一されるが、その統一の使命は日本の天職である」と世界三大ブロック論を夙に政治地理學的立場より唱へてゐる。世界の現狀及び皇國日本の世界史的使命を考へる時一入感深きものがある。

皇國日本の世界指導

宣長曰く「天地一枚なれば、皇國も漢國も天竺も、その餘の國々も、皆同一天地の内にして、皇國の天地、天竺の天地と別々にあるものではない。さればその天地の始まりのさまは、萬國の天地の始まりである。然らば古事記、日本紀に記されたる天地の始まりのさまは、萬國の天地の始まりのさまである。然れば其時になり出給へる天之御中主神以下の神たちは萬國の神たち、たゞ日本のみの神とする時は、天地の始まりも又日本のみの天地の始まり、日神も日本のみの日神にして、異國の天地日月は別のものとなつて來る。されど、天地日月が國によつて異なる如きことは有り得べき道理でない」と

宣長の精神を繼承したる平田篤胤は、眞の道は敎訓と云ふ事を記したる書物でなく事實であつて、而して敎は事實より甚だ下い物にして事實あれば敎はいらず、道の事

實なき故教が必要であると云つてゐる。卽ち事實の上に眞の道が具はつてゐる事を明かにし、而して眞の道は古の事實を記されたる古事記、日本書紀であると云つてゐる。

是等の人々の語は、實に我等の味ふ可き事にして、我等の人生觀乃至世界觀は眞に茲に始まる可きである。然るに萬世一系の理想を餘りに屢々口頭に上らせられたる爲今の世の人々は却つて其の中に含まるゝ深奥なる意義と、事實とを反省せざる傾あるのみならず、宣長の有つこの世界觀を今日の學者、精神運動者等は聊も發展せしめてゐない。これ、眞に我等の遺憾とするところである。この世界觀の發展、茲に我等の世界指導の歷史的必然性がある。

我等が知ると知らざるとに懸らず、皇國日本が世界を指導する準備は着々として進められてゐる。これ實に神意に依るとでも云ふ可きであろう。卽ち東洋文化を創造したる皇國日本は、此の文化に依り正に全亞細亞を指導せんとし、而して世界文化の創造に依り、眞に世界を指導するの日も眼前に迫つてゐる。

曾てギリシヤ文化の華かなりし頃は、ギリシヤは四隣の國を支配し、ローマ文化の

盛んなりし頃は、ローマは全歐洲を支配し、特に西洋文化にありては、東洋その他の國々をも支配した。支那及び印度文化に於ても然りである。斯くの如く高度なる文化を持つ國民は、しからざる國民を指導し、而して世界文化に貢献して來た。故に我等に依る世界文化の創造は、我等の世界指導を意味する。

蠶は始め極小の一卵に過ぎないが、幾度かの脫皮作業を經て始めて繭となる。蠶が正に繭を作らんとする前に於ける食物の攝取力は旺盛である。而してこの攝取せる食物の多寡は、忽ち繭に於て表れる。

我等は今世界最大にして最上の繭を作らんとして居るのである。故に蠶が最後の仕上げの爲に出來得る限りの食物を攝取する如く、我等も亦、出來得る限り食物を攝取せねばならない。幸にして、我等は世界の凡ゆる文化を攝取し盡してゐる。故に世界最高の文化を創造すべき機會と立場が與へられてゐる。

しかし乍ら、これは易々たる事にあらしずて、國民の自覺を必要とするは勿論の事なるも、先づ凡ゆる文化の根幹をなす教育の根本的革新を必要とするのである。

教育理念の革新

文化の創造に先立つ條件は國民生活の安定であり、その安定に先立つ條件は國防の安定である。しかし乍ら、現代の如き文化の程度に於ては、一國が近代國家として存立する爲には、國防も國民生活も否應なしに科學的でなければならない。就中自然科學を應用したる科學でなければならない。我等の生活より電氣、ガソリン、電燈、汽車、汽船、自動車、飛行機等を取り去れば、我國の經濟及び產業の運轉は立ちどころに支障を來すことになる。又大砲、機關銃、潛水艦、軍艦、戰車、裝甲車、飛行機等なくしては國防の安定はあり得ない。斯くの如く觀じ來る時、近代的な國民生活及び國防の安定を圖る爲には、所謂文化を必要とする。而して文化の根幹を成すものは教育である。

然るに從來の我國の教育は、日本の國是とは別個に獨立せる教育を施せる感が深い

支那事變勃發してより五年、皇軍の威武東亞を壓し聖戰の眞義は發揚せられたりと云へども、抗日尙僻境に餘喘を保ち事變目的の達成を視ざるは、第三國の援蔣行爲は勿論の事なるも、支那の初等教育に於ける抗日教育の徹底にある。

蔣統治下の支那が抗日を以て國是なりとせば、支那の教育は慥に國家の理想に合致したるものにして、我等によつて非教育國なりとされたる支那は、教育に成功したる事を意味する。しかし乍ら教育國日本と自認してゐた我國は、教育と云ふ點に於て寧ろ、失敗と云はざるを得ない。

即ち我國の教育は個人主義、自由主義、資本主義と密接なる關係を保ち、明治維新以來今日迄培養されて來た。殊に初等教育に於て教ゆるところは「成功」と云ふ文字を以て教育の主題とした。然もその「成功」たるや、單なる個人の成功、例へば官公吏となりて高位高官に昇ること、其他の者にありては裸一貫より飛び出して天下の富豪となる事を成功であると教へて來た。故に現代の國民の大方は「成功」の爲には他を犧牲にする事を省みず、只管、己が成功への爲めに全力を傾注した。されば成功せ

んとする精神の旺盛なるもの程、個人主義的になつて行つた。

又立身出世主義の教育は主知主義であつた。即ち上級學校の入學試驗が主として知識の試驗であり、一方に於て立身出世する爲には官公立の中等學校、高等學校、大學と進まざるを得ぬ社會狀態下にありては、教へる者、學ぶ者、共に知識に偏重する結果、鍛錬主義の教育は殆ど顧みられなかつた。

官吏となりて立身出世せんとする者は、現在の社會制度より視れば、在學中、成績優秀にして、且高文合格を先づ前提とするを以て、教育者は知的方面のみの教育に力を注ぎ精神教育は疎になり、被教育者も亦高等教育を受けるは、己が立身出世せんとする一つの手段の如く考へるに至つた。而して自己中心主義の精神は知らず〳〵の中に培はれ、官吏となるに及んでは、己が高位高官に昇らんとして手段を選ばず、爲に他人を陷れ、或は贈收賄等に依り一身の榮達を圖らんとする者さへ出づるに至つた。

官吏となり高位高官に昇るを立身出世とするの觀念は官尊民卑の思想を生み、學校の如きも官公立の學校を選ぶ者多くなり（社會の官學偏重傾向にも依るが）教育者も

親も子も、早や初等教育時代に於て、單に是等學校入學の爲のみに專念し競爭するが故に、總ての競爭は自己自身の爲にするものなりとの意識を强く植え付けたのである。

方富豪たらんとする者は、常に最大利益を得んことに專念し、その目的の爲には國法も道德も無視して突進する。而して彼等は己の社會のみに通用する獨特の所謂商人道德なるものを產むに至つた。即ち利益を多く收めるを最上の商人なりとし、その爲には不道德的行爲も當然なりとした。而も國民は彼等の商人道德なるものを敢て不思議とも思はず、利潤追求に狂奔する商人を手腕家なりとして尊敬する事さへあつた。

かゝる現象は既に初等教育に於て、教育方針が根本的に間違つてゐたる事に基因する。從來の教育は總て自己を中心として發展向上すべき理念を注入して來た。我等が教育の根本改造を叫ぶ所以も玆にある。即ち從來の自己中心の教育を捨てゝ皇室を中心とする一大家族國家無窮の存續發展の爲に、自己を犧牲にし國家の爲に盡す人となること、換言すれば、盡忠報國の誠を致すを最大の「偉人」なりとする觀念を養ひ、且この精神を實現さすべく總ての教育の根本方針を替へねばならない。

423
119

更に教育を通じて國民全體の個性を熟知し、而して各自の個性を最大限に活用する爲に適材適所主義の教育を施さねばならぬ。斯くして適材適所主義の教育は初等より中等、更に專門の教育に入る迄に各自の個性を把握し、國家は各自の將來の進路、職業を統制的に指導すると共に、その個性を充分に發揮せしむる教育を施さねばならぬ。

要するに國家本位の教育として更生し、主知主義、鍛錬主義の各長所を採つて、眞に國家目的に合する國民陶冶と云ふ處迄進まねばならぬ。故に從來の如く優秀なる頭腦を有するも、教育費なき爲その才能を延ばし得ず、社會の下積となりて一生を終るが如きは、國家的に見て大なる損失と云はざるを得ない。故にかゝる者は國家の保護により充分教育し、本人の才能を延ばして國家の人材たらしめなくてはならない。

前述の如き理念の革新は教育制度の改革と相俟ち始めて効果を擧げ得らる。

昭和十六年十二月二十日印刷　昭和十六年十二月　日發行　定價貳拾錢
東京市瀧野川區上中里町三三九　著者　遠山丙市
東京市豐島區駒込六丁目四九五　發行者　田邊讓
東京市瀧野川區上中里町三三九　印刷者　落合劍上
東亞曉民社

財團法人 中野學園

財團法人
中野學園理事長 高木章
東京市中野區江古田
電話中野 七〇五三番 五九七三番 六八〇一番

文部大臣認可
財團法人
中野學園中學校長 遠山丙市

中野高等無線電信學校
男爵 沖貞男

顧問 從二位勳一等 海軍大將 山本英輔

學生募集

高等無線學校

本科（中等學校卒業者及同等者）二年制
普通科（中等學校三年修了者及同等者）一年制
豫科一年（國民學校卒業者）二年制
豫科二年（國民學校高等科卒業者及同等者）一年制

昭和十七年度卒業見込者ニシテ在學中就職シタル者三百五十余名ニ達ス

中學校

第一學年 二百名
第二學年 補缺若干名